

第1部

調査の概要

第1部 調査の概要

第1 調査の目的

本県における青少年の意識や行動を把握し、青少年に関する総合的な施策の推進のための基礎資料を得るとともに、広く県民に紹介することにより、青少年の健全育成に対する理解と協力を得る。

第2 調査の方法

質問紙による無記名集団調査

第3 調査の対象

県内の小学校6年生425人（男子220人、女子205人）

〃 中学校2年生432人（男子233人、女子199人）

〃 高等学校2年生401人（男子201人、女子200人）

計1,258人（男子654人、女子604人）

1. 小学校（18校）

青森市立原別小学校、平内町立東小学校、外ヶ浜町立蟹田小学校
弘前市立西小学校、黒石市立中郷小学校、大鰐町立長峰小学校
五所川原市立五所川原小学校、鱒ヶ沢町立西海小学校、板柳町立板柳東小学校
十和田市立東小学校、七戸町立天間東小学校、六ヶ所村立尾駈小学校
むつ市立第三田名部小学校、大間町立奥戸小学校、佐井村立佐井小学校
八戸市立根岸小学校、三戸町立斗川小学校、田子町立上郷小学校

2. 中学校（15校）

青森市立東中学校、平内町立西平内中学校、外ヶ浜町立三厩中学校
弘前市立南中学校、藤崎町立明德中学校、五所川原市立五所川原第一中学校
つがる市立館岡中学校、深浦町立岩崎中学校、三沢市立第二中学校
おいらせ町立下田中学校、むつ市立川内中学校、東通村立東通中学校
風間浦村立風間浦中学校、八戸市立大館中学校、南部町立名川中学校

3. 高等学校（12校）

県立青森北高等学校、県立青森商業高等学校、県立弘前実業高等学校
県立尾上総合高等学校、県立鱒ヶ沢高等学校、県立鶴田高等学校
県立十和田西高等学校、県立野辺地高等学校、県立田名部高等学校
県立大間高等学校、県立八戸北高等学校、県立五戸高等学校

第4 調査の実施期間

平成20年10月から平成20年11月

第5 調査項目

1. 地域のこと

青森県への評価、住んでいる地域への評価、地域の大人へのあいさつ、地域の大人からのあいさつ

2. 学校のこと

学校生活への満足度、学校生活が楽しい理由、学校生活が楽しくない理由

3. 家族・家庭のこと

同居家族、兄弟・姉妹の数、「家庭の日」の周知状況、家族がいる家への評価、家族との約束ごと、父親との会話の頻度、母親との会話の頻度、家族や家庭に大切なこと、周囲の大人について、周囲の大人に望むこと

4. 自分のこと

自己への評価、他人への思いやり、悩みごと、悩みごとの相談相手、本当に困ったときの相談相手、放課後の過ごし方、休日の過ごし方

5. メディア・コミュニケーションのこと

友だちとのコミュニケーション方法、携帯電話の所有状況、インターネットのできるパソコンの所有状況、情報サイトへのアクセス状況、情報サイトの利用目的、年齢が制限されているサイトへのアクセス状況、「学校裏サイト」へのアクセス状況、フィルタリング機能の認知状況、フィルタリング機能の利用状況

6. 生活規範に対する意識

深夜外出の状況、古物換金の状況、刃物の携帯状況、刃物の使用頻度、生活規範に対する意識

7. 社会変化に対する意識

社会変化に対する意識

第6 時系列比較について

この調査報告書では、下記（3種類）の調査結果との比較分析を行なっている。これらの調査は本調査と同様に、本県における青少年の意識や行動を把握し、青少年に関する総合的な施策の推進のための基礎資料を得ることを目的として、平成10年度、16年度及び18年度に実施したものである。

それらの結果と照合して、共通質問を行った部分について比較を試みた。本報告書への記載にあたっては、次のように標記している。

●【時系列比較（平成10年度調査比較）】

平成10年度「青少年の意識に関する調査結果報告書—青少年の生活実態と意識—」を用いた時系列比較分析

●【時系列比較（平成16年度調査比較）】

平成16年度「青少年の意識に関する調査結果報告書」を用いた時系列比較分析

●【時系列比較（平成18年度調査比較）】

平成18年度「青少年の意識に関する調査結果報告書」を用いた時系列比較分析

それぞれの調査概要は次の通りである。

1. 平成10年度「青少年の意識に関する調査結果報告書－青少年の生活実態と意識－」

(1) 調査対象者

県内の小学校6年生、中学校2年生、高等学校2年生

(2) 有効回答者数

児童・生徒1,831人

(3) 調査実施時期

平成10年7月

2. 平成16年度「青少年の意識に関する調査」結果報告書

(1) 調査対象者

県内の小学校6年生、中学校2年生、高等学校2年生

(2) 有効回答者数

児童・生徒1,149人

(3) 調査実施期間

平成16年10月～11月

3. 平成18年度「青少年の意識に関する調査」結果報告書

(1) 調査対象者

県内の小学校6年生、中学校2年生、高等学校2年生

(2) 有効回答者数

児童・生徒1,394人

(3) 調査実施期間

平成18年10月～11月

第7 報告書を見る際の留意点

比率はすべてパーセントで表し、小数第2位を四捨五入して算出した。そのため比率の合計が100パーセントにならない場合がある。

第8 回答者の属性

性別・学年（回答者数：1,258人）

小学6年生		中学2年生		高校2年生		合 計	
男子	220	男子	233	男子	201	男子	654
女子	205	女子	199	女子	200	女子	604
計	425	計	432	計	401	計	1,258